

平成 19 年度

上越市総合教育プランに基づく
教育委員会の施策の点検・評価

報 告 書

平成 20 年 11 月
上越市教育委員会

上越市総合教育プランに基づく教育委員会の施策の点検・評価

平成20年度は総合教育プラン実施計画作成による本格実施の1年目であり、本年度の評価は来年9月に実施する。本年度は、平成19年度に本格実施に先行して作成した重点施策を対象として、「現状と方向」等について記述してその点検・評価とする。

点検・評価内容については、上越市総合教育プラン検討委員であった有識者からの意見をいただき、今後の教育委員会施策の実施・運営に生かしていく。

平成20年度教育委員会の施策点検・評価者

中野 正春 新潟県立看護大学学長代行
藤田 武志 上越教育大学准教授

教育委員会の会議及び委員の主な活動

教育委員会は、教育行政における重要事項や基本方針を決定し、それに基づいて教育長が具体の事務を執行する。定例会や臨時会の会議開催のほか、課題研究や意見交換のため、教育懇談会を開催している。

- | | |
|-------------------------------------|------|
| 1 定例会開催回数 | 12回 |
| 議案等件数 | |
| ・議案 | 114件 |
| ・報告 | 35件 |
| ・その他 | 4件 |
| 2 臨時会回数 | 1回 |
| 3 教育懇談会開催 | 12回 |
| 4 新潟県市町村教育委員連合会を開催 | |
| 5 教育委員行政視察(習志野市、市川市) | |
| ・習志野市立秋津コミュニティの実態と運営について | |
| ・メディアパーク市川(市川市生涯学習センター)の施設視察と運営について | |
| 6 教育委員による学校訪問(21校) | |
| 7 上越地方三市教育委員連絡会
三市教育委員との意見交換会 | |
| 8 教育委員会の公開 | |
| 会議録を速やかに作成し、ホームページを通じて公表している。 | |

点検・評価項目一覧

- 1 開かれた学校教育の推進
 - 1 - 1 教育相談や子育て相談の実施
 - ・いじめ・不登校・非行の実態
 - ・学校地域ネットワーク事業の現状と方向
 - ・教育相談の現状と方向
 - 1 - 2 学校施設の開放
 - ・放課後子ども教室の現状と方向
 - 1 - 3 安全・安心での協力体制などの環境整備
 - ・学校安全推進事業の現状と方向
 - ・通学路安全確保対策事業の現状と方向
 - ・学校安全体制整備事業の現状と方向
 - 1 - 4 他の学校との連携・協力
 - ・幼少連携推進事業の現状と方向
 - ・小中連携推進事業の現状と方向
 - ・中高連携推進事業の現状と方向
 - 1 - 5 教育委員会・大学・NPO の連携
 - ・教育を考える集いの現状と方向
 - ・教育フォーラムの現状と方向
 - ・教育パネル展の状況
 - 1 - 6 学校からの情報発信体制の整備
 - ・ネット環境の整備の現状と方向
 - ・各学校のホームページの状況
 - 1 - 7 わかりやすい教育内容の提示の促進
 - ・各学校のグランドデザインの状況
 - ・学校パネル展の状況
 - 1 - 8 学校を支援するボランティア活用の推進
 - ・各学校の図書館ボランティアの現状と方向
 - ・全市的な人材バンクの整備状況（HP で）
 - ・
- 2 上越カリキュラムプランで上越市らしい教育の推進
 - 2 - 1 カリキュラムセンターの設置
 - ・カリキュラムセンターの設置状況
 - 2 - 2 上越市立の学校教育の基底計画
 - ・上越カリキュラム基本計画の状況と方向
 - 2 - 3 特色あるカリキュラムを展開するためのモデルプランの作成
 - ・特色あるカリキュラムモデルの状況と方向
 - 2 - 4 教育課題に応じた教員研修体制の整備
 - ・カリキュラム研修の実態と方向

- 3 家庭の教育力の向上のための支援体制の整備
 - 3 - 1 学校・家庭・地域と連携した生活習慣作りや健康づくりの推進
 - ・ 青少年の健全育成にかかわる事業の実態と方向
 - 3 - 2 基本的な生活習慣の確立
 - ・ 早寝・早起きなど家庭教育推進事業の実態と方向
 - 3 - 3 育児支援グループによる自主的活動の推進
 - ・ 育児支援にかかわる事業の実態と方向
 - 3 - 4 子どもの読書活動の推進
 - ・ 子ども読書活動推進計画の進捗状況
 - 3 - 5 家庭教育に関する啓発
 - ・ PTA ウィークエンド子ども体験事業の状況
 - 3 - 6 子育て支援の充実
 - ・ 家庭教育推進協議会での子育て支援の状況と方向
 - 3 - 7 ちょっと気になる子どもたちの相談と支援体制の整備
 - ・ 特別支援教育の相談体制の状況と方向
 - 3 - 8 子どもの人権の尊重
 - ・ 子どもの権利条約の制定による研修の状況

- 4 身近に読書のある生活環境の整備
 - 4 - 1 利用しやすい図書館づくり
 - ・ 図書検索システムの現状と方向
 - 4 - 2 子ども読書活動の推進
 - ・ 3 - 4 と同じ
 - 4 - 3 学校図書館の機能充実
 - ・ 1 - 8 と同じ
 - 4 - 4 市立図書館と学校図書館の連携
 - ・ みつけるゾウさんの現状と方向
 - 4 - 5 読書に関する啓発活動
 - ・ みんなの本だなの現状と方向
 - ・ みんなの本だな WEB の現状と方向

- 5 地域の教育力の向上のための支援体制の整備
 - 5 - 1 地域における教育を推進する会議
 - ・ 地域青少年育成会議の整備状況

1 開かれた学校教育の推進

1 - 1 教育相談や子育て相談の実施

<目標>

いじめ、不登校、非行の問題解決には、学校と家庭や地域がネットワークを組んで取り組むことが不可欠です。学校地域ネットワーク事業を推進していくために、児童・生徒の教育相談や保護者の子育てに関する相談の身近な窓口として学校が機能し、専門の相談機関へのコーディネートができる体制をより強化するよう取り組んでいきます。

<進捗状況>

・いじめ・不登校・非行の実態

いじめ認知件数は昨年度と比較すると倍増しています。特に中学校の認知件数の伸びが目立ち、これは学校での指導の結果、本人や保護者からの訴えが増加したことで教師間の情報交換の成果と見られます。児童の不登校数は昨年度に比べ横ばい、中学校は1学期後半から増加傾向にあります。非行は携帯電話ケータイを使った学校間の広がりが見られるようになってきました。

・学校地域ネットワーク事業の現状と方向

市町村合併を機に、本来目指していた地域住民主体の地域青少年育成組織の設立に向かい進行中です。各中学校区では、いじめ根絶の取組や情報モラル教育の啓発などが進んでおり、「地域の子どもは地域で育てる」機運が高まっています。

・教育相談の現状と方向

小中学校を、カウンセラーが訪問し、児童生徒、保護者、教職員の教育相談を受けています。また、南・北相談所とセンターでは、来所いただいた皆さんへの相談を行っています。児童・生徒、保護者の皆さんに、相談体制がかなり理解されてきたこともあり、相談件数が増加しています。友人関係・いじめや問題行動についての相談のほか、不登校関連、家族関係の相談が多くなっています。電話相談でも同様の傾向が見られます。

<有識者からのご意見>

- ・認知件数が増えたことは多彩な取り組みにより早期に問題を発見しようという姿勢も要因であると思う。その後の指導体制も含めて今後の発展に期待する。
- ・いじめの報告件数が増加していること、安塚学園などの外部機関との連携が進んでいることなどから、取り組みが充実してきていると思われる。今後の展開として、問題を抱えた児童生徒について、専門機関による支援のみならず、大学生や専門学校生など、年の近いボランティアとの「ナナメの関係」による支援なども考えられる。

1 - 2 学校施設の開放

<目標>

地域でもっとも身近な教育施設である学校を地域の教育活動で使いやすいものにしていくことが必要です。現在、行っている体育館以外の施設開放も、学校の管理体制や学校の実情に応じて推進していきます。

<進捗状況>

・放課後子ども教室の現状と方向

平成 19 年度は 3 小学校区をモデル教室として実施しました。20 年度は 5 小学校区に増加し、各教室が地域事情に応じたプログラムを実施しています。今後も学校施設や公民館等を利用し、学校側の協力と理解を得ながら、地域住民、学生などのボランティアを活用した事業展開を目指します。

<有識者からのご意見>

- ・施設の管理上などの問題がいくつかあるようである。問題点を十分検討して改善していただきたい。
- ・学校と地域の双方に利益となる施設開放に向けた取り組みをさらに拡充していただきたい。

1 - 3 安全・安心での協力体制などの環境整備

<目標>

学校の安全を地域で守るといふ今の取組を今後も進めていく必要があります。そのためには、学校が地域に開かれ、地域全体で学校を支える体制をより密着したものになるように推進していきます。

<進捗状況>

・学校安全推進事業の現状と方向

各校で学校安全ボランティアの育成、充実を図るとともに、積極的に連携を図り、児童生徒の登下校の安全確保に努めています。不審者事案は前年度に比べ減少してきています。

・通学路安全確保対策事業の現状と方向

スクールガードリーダーが継続して小学校区をパトロールし、安全確保を図るとともに、防災安全課も連携し、パトロールを強化しています。また、毎年各小中学校からは、通学路の危険箇所及び改善要望を提出してもらい集約し、道路課、防災安全課と連携し、関係機関に働きかけ、改善を図ってきています。

・学校安全体制整備事業の現状と方向

「地域ぐるみの学校安全体制整備推進事業」を核に、協力体制を構築しています。全小学校区にスクールガードリーダーを配置し、通学路の巡回指導を通して児童生徒の安全確保を図っています。また、学校安全ボランティア養成講習会を実施し、学校と家庭、地域が連携して安全確保を図る体制整備を進めています。

<有識者からのご意見>

- ・不審者が減るなどの効果がある。各事業をうまく運用して今後も取り組んでもらいたい。
- ・スクールガードリーダーの活躍や学校安全ボランティア養成講座の実施など、充実した取り組みがなされていると思われる。

1 - 4 他の学校との連携・協力

<目標>

小学校と中学校の連携を中心としながら、幼稚園・保育園や高等学校など他の校種の学校とも連携・協力していく取組をこれまで以上に推進していきます。

<進捗状況>

・幼小連携推進事業の現状と方向

幼稚園、保育園、小連携間の連携については、「小1プロブレム」の解消に向けて、入学時の情報交換だけではなく、お互いに授業を参観し、実態を踏まえながら、共通に取り組む課題について意見交換しています。また、生活習慣上の課題や健康の維持増進上の課題から、共通して実践する項目を決め、取り組んでいる園や学校があります。今後は中学校区を単位として、家庭や地域を巻き込んでの取組へ発展させていくことが必要です。

・小中連携推進事業の現状と方向

小学校、中学校の連携については、「中1ギャップ」解消や「いじめ防止学習プログラム」の取組を通して、小中学校の連携が推進されてきました。いくつかの中学校区では、生徒指導上の課題解決だけではなく、学力向上やよりよい生活習慣づくりを目指し、地域コミュニティづくりを進めながら、課題解決を図ろうとする取組が始められています。今後、このような中学校区を単位とする園・学校・地域の融合を図る活動の展開が望まれます。

・中高連携推進事業の現状と方向

中学校と高等学校の連携については、管理職レベルの情報交換・意見交換が定期的に行われ、進路指導や生徒指導に役立っています。今後は、地域青少年育成会議等による地域における育成活動が活発に行われることが必要です。中高生が地域行事等に参加し、貢献することを通して自己有用を高め、社会性を身に付けていくことが重要であり、それを支援する中学校と高等学校の連携が必要です。

<有識者からのご意見>

- ・小・中学生との連携が良いが高校生との連携がうまくいかないようである。中学生の連携が良いということは、高校生も高校単位でなく卒業中学レベルの（中学校からの延長として）考えでできないものか。特に地域行事は。
- ・学力保障や生徒指導、学校と家庭の連携などについて、義務教育の9年間を見通した取組みを充実させるべく、学校同士の連携・協力をさらに進めていただきたいと思う。

1 - 5 教育委員会・大学・NPOとの連携

<目標>

学校が、教育委員会、大学、NPOと密接に連携し、協力して教育活動を行えるような体制の整備に努めていきます。

<進捗状況>

・教育を考える集いの現状と方向

教育委員会事務局及び教育関係団体と連携し、教育プラザをメイン会場に11月23日

から 25 日の 3 日間、6,691 人の市民及び教育関係者の参加をいただき開催しました。謙信キッズプロジェクトの活動報告や各学校活動を記したパネル展などで好評を得ています。今後も関係機関等の連携を深め、協力して教育活動を行えるような体制整備に努めます。

・教育フォーラムの現状と方向

上越教育大学や市内の NPO や教育関係団体と連携して、「第 1 回教育フォーラム in 上越」を実施しました。市内外から 1300 余名の参加者を得て、上越カリキュラムの内容、上越教育大学との連携プロジェクト、上越市の情報教育の現状などを協議する機会を得ました。第 2 回のフォーラムも、上越カリキュラムを中心軸に据え、「米サミット」「雪サミット」「謙信サミット」などを盛り込んで実施する予定です。今後も、市の学校教育の方向を協議確認する機会として位置づけてまいりたいと考えています。

・教育パネル展の状況

広く市民の皆さんに、上越市の教育活動を紹介するため、小・中学校や公民館、13 区などそれぞれの特徴ある活動を紹介するパネル展を展開しています。昨年度は、より多くの皆さんにご覧いただくため、巡回パネル展を実施しましたが、今後もパネル内容の充実を図るとともに周知、紹介方法の工夫に努めます。

<有識者からのご意見>

- ・まだ始まったばかりの取り組みであるが、多くの参加者があり活発な活動ができていると思う。今後も関係機関と連携してより充実したものにしていきたい。
- ・さまざまな特色ある取り組みがなされていると思われる。今後の展開として、たとえば、大学と教育委員会の連携によって、文部科学省の学力調査の再分析や、地域の教育状況や学校の取り組みの検証などを行うことで、教育活動をブラッシュアップしていくことなどが考えられる。

1 - 6 学校からの情報発信体制の整備

<目標>

インターネットや携帯電話を使つての各学校から情報発信をしやすいための環境整備を行っていきます。また、情報発信の場として、ホームページの活用を各学校に積極的に促し、学校紹介パネル展などを企画していきます。

<進捗状況>

・ネット環境の整備の現状と方向

76 小・中学校すべてを結んだイントラネットが構築されており、学校と市教育委員会との文書の送受信などの上越市教育支援システムを活用した校務の情報化や教育への利活用が進んでいます。インターネット上のデジタルコンテンツを活用した授業の推進とデータの確実なバックアップ体制を構築するために、を超高速回線の整備を進めていきます。

・各学校のホームページの状況

すべての小・中学校で学校のホームページを開設しています。すべての職員が教育支援システムにより容易にホームページ作成し、教育活動を日常的に発信することができるように、すべての職員を対象とした研修を実施するとともに、学習情報指導員による巡回サポートを進めていきます。

<有識者からのご意見>

- ・早くから情報化整備が進んでおり、教育活動の情報を学校間や学校外に発信しているようである。情報の発信が一方通行とならないよう、フィードバックできるようなことを留意してもらいたい。
- ・先進的な取り組みがなされていると思われる。このような取り組みを継続していただきたい。

1 - 7 分かりやすい教育内容の提示の促進

<目標>

学校の教育内容や教育活動をグランドデザインの公開やホームページによって分かりやすく伝えるなど学校の広報活動が積極的に展開されるように各学校に働きかけます。

<進捗状況>

・各学校のグランドデザインの状況

全校において、どのような学校づくりを目指し、そのためにどんな方法をとるかが一目で分かるようなグランドデザインを作成し、年度初めの保護者会等で説明を行ったり、ホームページに掲載したりして周知に心がけています。目指したことがどう実現されているかを、年度途中で学校評価の中間評価結果等を基に保護者会やHPを通して分かりやすく説明していくようさらに働きかけていきます。

・学校パネル展の状況

市内すべての小中学校・園の特色ある教育活動を紹介するパネル展を通じて、広く市民や教育・学校関係者に上越市の学校教育について知ってもらうという趣旨が浸透し、年々内容が充実しつつあります。今後も、テーマを絞ってパネルを作成する等、一層の充実ための方策を検討しながら、充実、発展させていきます。

<有識者からのご意見>

- ・各校の独自性を出そうとし、またそれをパネルにして紹介していることは評価できる。
- ・学校の教育活動について、分かりやすい情報の発信がなされていると思われま。このような取り組みを継続していただきたいと思ひます。

1 - 8 学校を支援するボランティア活用の推進

<目標>

各学校で必要としている学校支援のボランティアの活用を積極的に進めます。全市的な人材バンクを整備し、学校からの要請に対応できるような環境整備に努めていきます。

<進捗状況>

・各学校の図書館ボランティアの現状と方向

ボランティアを活用している学校数は54校中25校、中学校は22校中1校であり、特に小学校において図書修繕、書架見出し等の環境づくりの他、直に子どもたちへの読み聞かせを行う等、活動の幅が広がっています。校長会ならびに図書館担当教諭の研修会を通し、ボランティアの活用推進をさらに働きかけていきます。

・全市的な人材バンクの整備状況（HPで）

各学校では、図書館での教育活動や学校行事の支援などに各地域のボランティアによ

る人材活用を積極的に行っています。しかし、各学校における人材活用は、学校ごとでの取組にとどまっており、全市的な状況把握はまだできていません。今後、地域青少年育成会議が進捗する中で、人材活用をその事業に位置づける方向で関連付けて行きたいと考えています。

<有識者からのご意見>

- ・図書館ボランティアのみが強調されているが、1 - 3で述べられている学校安全ボランティアやその他のボランティアもあると思うので記載したほうが良い。人材バンクのような取り組みは評価できるが、今後の問題のようである。
- ・ボランティアが学校に奉仕するだけにとどまらず、ボランティアにとっても意義のある活動となるよう、たとえば、ボランティアの意見を活かした学校づくりなど、ボランティア自身の学校への参画といった方向性についても検討していただければと思う。

2 上越カリキュラムプランで上越市らしい教育の推進

2 - 1 カリキュラムセンターの設置

<目標>

教育センターの機能としてカリキュラムセンターを新設します。上越カリキュラムプラン作成委員会（仮称）をカリキュラムセンターに設け、カリキュラム研究、カリキュラムモデルの作成、カリキュラム研修を行い、学校からの要請に応じて支援していく体制を整えていきます。

<進捗状況>

- ・カリキュラムセンターの設置状況

上越市総合教育プランの構想に基づき、情報教育部を新設するなど教育センター組織を改変するとともに、研修内容も上越カリキュラム開発研究と平行したものに變更し、実質的なカリキュラムセンターとして機能を開始しました。今後、学校からの要請に対して支援していく体制の整備を順次、整えていきます。

<有識者からのご意見>

- ・上越市総合教育プランに基づいた共通の基盤をもったカリキュラムを研究・作成しさらにそれを実践するための研修なども計画する組織として期待される。
- ・カリキュラムセンターは、先進的な特色ある取り組みである。今後、機能が充実するよう取り組みを継続していただきたい。

2 - 2 上越市立の学校教育の基底計画

<目標>

新しい学習指導要領にあわせ、ローカル・オプティマムとしての上越市の基底計画を明確にしていきます。各学校のカリキュラム作成のために学習すべき内容の最低基準（ミニマム・エッセンシャル）として基底計画を作成していきます。

<進捗状況>

・上越カリキュラム基本計画の状況と方向

上越カリキュラム「教科等の基本計画」の2本の柱である「学力向上」「ふるさと学習」という視点から、学習指導要領の改訂の趣旨及び上越市児童生徒の実態をもとに、重点事項の設定、モデルプランの作成を行っています。今年度中に報告書にまとめ、各校に配布するとともに、周知を図っていきます。

<有識者からのご意見>

- ・成果が報告書となってさらに各学校に配布されることで、より徹底が図られると思う。
- ・各学校の教育活動の指針となる基底計画を策定することは非常に重要だと思われる。なおその際には、「学力向上」の基底として、すべての子どもに対する「学力保障」という考え方を前面に出していただくよう期待する。

2 - 3 特色あるカリキュラムを展開するためのモデルプランの作成

<目標>

各学校が課題明確化の中で、独自のカリキュラムを生みだしていけるような新しいコア・カリキュラムの構想によるモデルプランを示していきます。

<進捗状況>

・特色あるカリキュラムモデルの状況と方向

カリキュラム開発についての研究と研修を進めながら、学校・地域の強みやよさを生かし、学校の教育課題を明確にした特色あるカリキュラム開発の指針とモデルを作成しています。今年度中に報告書にまとめ、説明会を開催して周知を図り、各校に活用を促していきます。

<有識者からのご意見>

- ・2 - 2で示された基底計画の上に、さらに各学校の特徴をいかした特色あるカリキュラムを作成している。これが活用されることに意義があるので各校への説明は詳細にする必要がある。
- ・上越カリキュラムを活用した取り組みが活発に行われるよう期待している。そのためにも、各校で作成したモデルプランのデータベース化という方向性の検討をお願いします。

2 - 4 教育課題に応じた教員研修体制の整備

<目標>

各学校の教育課題に応じたカリキュラム・マネジメント研修やカリキュラム作成研修などを行っていきます。

<進捗状況>

・カリキュラム研修の実態と方向

上越カリキュラムの開発研究事業にあわせて、教職員を対象にカリキュラム・マネジメント研修やカリキュラム作成研修などを実施しました。また、管理職を中心に学校力向上研修、教諭を中心に授業力向上研修等を行うなど、研修体制の強化を図ってきました。今後は、さらに教育現場のニーズに応じた研修体制の整備を図っていきます。

<有識者からのご意見>

- ・カリキュラムプランに沿った一環としての研修であり、今後多くの教職員の研修が行われることで次第により大きな成果がみられてくるであろう。
- ・各学校でのカリキュラム開発を支援することは、非常に重要な取り組みだと思われる。今後の取り組みの充実に向けては、優秀なカリキュラムの表彰など、各校でのカリキュラム開発へのインセンティブの検討などが考えられます。

3 家庭の教育力の向上のための支援体制の整備

3 - 1 学校・家庭・地域と連携した生活習慣作りや健康づくりの推進

<目標>

生活習慣作りや健康づくりなど青少年育成にかかわる活動を、市内の様々な団体が行っており、内容が重複している場合もあります。今後、組織を全体的に整理し、連携協力していく体制がとれるように調整を行っていきます。

<進捗状況>

- ・青少年の健全育成にかかわる事業の実態と方向

「謙信KIDSスクールプロジェクト～海と山と大地の楽校～」など、子どもたちが地域に出て体験する様々な活動を通し、青少年の健全育成を支援しています。今後は、家庭や学校から更なる理解を得るとともに、NPOなどの地域団体との連携を強化していきます。

<有識者からのご意見>

- ・プロジェクトを通して地域の物や伝統などに触れ、知的好奇心を高め豊かな心を育ててほしい。もっと楽校の種類を増やし選択の幅が増えるように希望する。逆に人気の楽校の回数を増やすことなども検討する。
- ・各地域の教育活動を活かした「謙信KIDSスクールプロジェクト」は、特色のある取り組みだと思う。それらをさらに活用してもらうため、子どもたちそれぞれの学習履歴を蓄積していったり、学習の成果を発信したりする取り組みなどについて検討していただきたい。

3 - 2 基本的な生活習慣の確立

<目標>

基本的な生活習慣の確立は家庭教育の重要な役目です。社会で生きていくために守るべきルールや「早寝早起き朝ご飯」などの生活リズムを、発達段階に応じて確実に身に付けるように啓発を重ねていきます。

<進捗状況>

- ・早寝・早起きなど家庭教育推進事業の実態と方向

学校関係者や行政関係者、社会教育委員などの団体や個人で組織する上越市家庭教育推進協議会では、ライフステージに応じた課題別子育て講座や父親の家庭教育への参加を促進するための講座を開催するなど家庭教育の一層の推進に努めている。

<有識者からのご意見>

- ・子育て講座や父親教室など幼少児に対する教育対策は認めるが、生活リズムの啓発など小中学生対象の対策が明確に見えてこない。
- ・家庭教育の支援は非常に大切な取り組みである。その基礎となるこのような啓発事業について、継続した取り組みを期待する。

3 - 3 育児支援グループによる自主的活動の推進

<目標>

育児は親の大事な役目ですが、いつの時代でも育児支援を行っていくのは地域の共同体の役目でした。共同体の自主性を失わないためにも、子育て支援が自主的な組織で行われるように、情報の提供や相談できる体制を整え、側面的な支援を行っていきます。

<進捗状況>

- ・育児支援にかかわる事業の実態と方向

行政と子育て支援の NPO 法人などで構成する上越市家庭教育推進協議会は、行政関係各課や関係団体と連携し、平成 19 年度には子育て支援に関わる講座を各種開講し、また平成 20 年度は IT を活用して育児情報の提供や相談にも対応するウェブサイトの開設を準備している。(ウェブサイト開設：11 月下旬)

<有識者からのご意見>

- ・ウェブサイト開設後の発展に期待する。
- ・育児支援の斬新的な取り組みが準備されているようであり、育児支援の自主的活動がさらに発展していくことが期待される。今後は、取り組みを発展させるべく、学校教育との連携についても検討していただけるといいように思う。

3 - 4 子どもの読書活動の推進

4「身近に読書のある生活環境の整備」- 3 - (2)を参照してください。

<進捗状況>

- ・子ども読書活動推進計画の進捗状況

計画と目標に基づき、市立図書館と学校図書館が連携し、子どもたちが利用しやすい読書環境整備を進めているほか、子育て関係の市長部局、公民館などの文化・教育施設等が行う多数の施策で目標を達成しているものの、高学年の読書ばなれなど、課題も多くあります。今後、計画の改訂に伴い、現状をふまえた目標設定と課題解決に向けた啓発を行っていきます。

<有識者からのご意見>

- ・4の読書参照
- ・さまざまな施策が実施されて目標を達成しており、充実した取り組みが成されていると思われる。

3 - 5 家庭教育に関する啓発

<目標>

家庭教育に関する啓発活動はあらゆる機会、あらゆる場面で継続的に行っていく必要があります。学校や公民館を通じて啓発活動を行うだけでなく、地域やNPOも協力し、市民全体で家庭教育に関して考えていく必要があります。特に、学校と家庭をつなぐパイプとしてだけでなく、学校にも家庭にも「ものもうす」機関としてPTAが果たす役割は重要です。

<進捗状況>

・PTA ウィークエンド子ども体験事業の状況

平成19年度は、市内全小学校と中学校23校で、文化・スポーツ活動や奉仕活動、講演会などが行われており、20年度も各校で引き続き特色ある事業が実施されている。今後はさらなる地域住民の参画と協力により、家庭と地域双方の教育力向上を目指す。

<有識者からのご意見>

- ・地域住民と児童生徒が触れ合う良い機会であると思われる。多くの者が参加できるような方向に指導してもらいたい。
- ・地域に根ざした特色ある活動が実施されており、今後も継続した取り組みを期待する。地域における育児支援事業などとの連携も検討していただければと思う。

3 - 6 子育て支援の充実

<目標>

上越市とNPOとで家庭教育推進協議会を設置し、市内の幼稚園・保育園で保護者を対象とした子育て講座を実施します。また、「ヤングママの集い」や「妊娠子育て講座」などを実施していきます。

<進捗状況>

・家庭教育推進協議会での子育て支援の状況と方向

上越市家庭教育推進協議会は、平成19年度において「家庭教育支援総合推進事業」を実施し、乳幼児期や学童期における子育て講座など111回開催し、また父親家庭教育参加促進講座を2回開催するなど家庭教育の推進に努めている。

<有識者からのご意見>

- ・父親家庭教育参加促進講座の回数をもっと増やして参加の機会を多くしたい。
- ・子育て講座などを通じた啓発活動が充実している。今後の展開として、たとえば、高齢者などを活用した、子育てに関する具体的な支援を充実させていくことを期待する。

3 - 7 「ちょっと気になる子どもたち」の相談と支援体制の整備

<目標>

目の前の子どもの「ちょっと気になること」に対して気軽に相談できる体制と、家庭や学校がその子どもをどう援助していくかという支援体制を整備していきます。

<進捗状況>

・特別支援教育の相談体制の状況と方向

特別支援教育巡回相談事業により、通常学級における特別な教育的ニーズのある児童生徒にかかわる職員及び校内委員会への助言、校内支援体制作りを実施しています。また、校内の特別支援教育コーディネーターによる教育相談、言語障害通級指導教室、難聴通級指導教室、発達障害通級指導教室の担当者による教育相談や障害に応じた指導、特別支援学級の積極的な活用などにより、児童生徒の特性に応じた指導及び相談体制を構築していきます。また、子育て支援課及び子ども福祉課等関係機関との連携を図り、幼児期からの引継ぎ及び情報共有を円滑にし、小学校入学から中学校卒業まで一貫した指導や支援が行える体制作りを構築していきます。

<有識者からのご意見>

- ・支援が必要な子どもを各機関が連携をとり早期から一貫した支援を行っていることが評価される。
- ・相談体制や支援体制作りが進められており、特別支援教育が充実してきている。今後は、構築された体制が有機的に機能するよう、取り組みをさらに拡充していただきたいと思う。

3 - 8 子どもの人権の尊重

<目標>

「上越市子どもの権利条例(仮称)」の制定を受け、子どもの人権尊重のための仕組みづくりに取り組んでいきます。

<進捗状況>

・子どもの権利条約の制定による研修の状況

子どもを取り巻く様々な課題に対し、より主体的に取り組めるよう、職員の資質向上と意識の啓発に取り組んでいます。すべての子どもの権利が尊重され、健やかに成長できる地域社会づくりをめざします。

<有識者からのご意見>

- ・虐待やネグレクトなど子どもに対するいろいろな問題があげられている。しかし、実際それにうまく関与するにはいろいろな障害もあると聞く。研修を積んだ職員を育成して対処して欲しい。
- ・啓発活動にとどまらず、子どもの権利を尊重する具体的な取り組みがなされることを期待している。

4 身近に読書のある生活環境の整備

4 - 1 利用しやすい図書館づくり

<目標>

現在、高田・直江津図書館では、インターネットを利用することで、所蔵する本を貸し出しや返却ができるサービスを行っています。また、「新潟県内図書館横断検索システム」

を通じて、県内ほとんどの図書館の本の検索が可能です。ホームページを充実させ、学校図書館との連携を進める中で、より利用しやすい環境を整備していきます。

<進捗状況>

・図書検索システムの現状と方向

図書館ホームページの図書検索システムについては、現状でもかなり多様な検索機能を持っています。今後はその使い方について、ホームページ上にて、よりわかりやすい案内を提供するよう努めます。

また、学校図書館とは、ホームページの図書検索システムの機能の点検した上で、情報セキュリティに問題がないような連携方法を調査・整備していきます。

<有識者からのご意見>

- ・いくら高度な検索システムであっても操作が煩雑であれば意味がない。単純な操作で検索できるシステムを作成し、子ども・高齢者でも使用しやすいものを考えて欲しい。
- ・図書館の充実が地域の文化振興のためにも非常に重要な取り組みだと思われる。今後もさらに事業を継続していくことを期待する。

4 - 2 子どもの読書活動の推進

子どもの読書活動の充実には、上越市は現在「子ども読書活動推進計画」を策定して取り組んでいます。この計画を基軸に学校・家庭・地域の連携を進めて、読書環境の整備、家に眠っている絵本の再活用、TVやゲームを離れて読書に浸る日を設けるなどの取組を進めていきます。

<進捗状況>

- ・3 - 4と同じ

4 - 3 学校図書館の機能充実

<目標>

学校図書館の活動を支援してくれるボランティアを募集し、学校図書館補助員との連携によって学校の図書館の機能を充実していきます。

<進捗状況>

- ・1 - 8と同じ

4 - 4 市立図書館と学校図書館の連携

<目標>

市立図書館と学校図書館をつなぐ図書館ネットワーク事業を進め、本の検索や本の貸し出しなどの連携を図れるようにしていき、いつでもどこからでも本を探し出せる環境の整備に努めていきます。

<進捗状況>

・みつけるゾウさんの現状と方向

各校では蔵書データを次々に蔵書検索システム「みつけるゾウさん」に入力しています。探している本が自分の学校にない場合、どの学校にあるかが一目で分かり、学校間

貸しが可能です。市立図書館へもリンクしているのでどこの学校にもない本は市立図書館から貸出できます。データ登録数を増やし、実際の活用が進むよう働きかけていきます。

<有識者からのご意見>

- ・本離れを解消するのは大変難しいことだと、本学の学生を見ていると痛感する。市立図書館との連携で学校の図書館にないような本を検索できるのは良いことであると思う。
- ・公立図書館と学校図書館の連携は非常に重要な取り組みだと思われる。今後も引き続き事業を推進していくよう希望する。

4 - 5 読書に関する啓発活動

<目標>

市立図書館や学校図書館の連携のもと、読書活動の推進を全市的な運動にするように努めていきます。「読書の日」についての啓発活動や図書館のホームページの利用促進を行います。また、読書ブログを設けたり絵本リサイクル活動を展開したり、全市的な運動になるような啓発活動の取組を行っていきます。

<進捗状況>

- ・みんなの本だなの現状と方向

身近で気軽に利用できる小さな図書コーナー「みんなの本だな」を市内随所に設置するため、市広報などを通じて市民に呼びかけ、設置を推進しました。市の施設(公民館、市役所、総合事務所など)をはじめ、地域の診療所、商店、幼稚園、入浴施設などに設置され、貸出し冊数や期限を設けない気軽な図書コーナーとして、親しまれています。今後は、「みんなの本だな」の認知度を高め、設置箇所を増やし、利用を推進するため、市民ボランティアの活用を図ってまいります。(平成20年3月現在 35箇所)

- ・みんなの本だな WEB

教育委員会ポータルサイト内に読書関連のブログを設け、「みんなの本だな WEB」として整備することができました。ポータルサイトの活用を今後進めるにあたって、ネット内での市民参加型の読書推進活動として啓発に努めていく予定です。

<有識者からのご意見>

- ・病院などの待ち時間でちょっとした本を読みたいことは良くあることである。スペースの関係もあり難しい点もあるが、より多くの協力できる店舗・施設を開拓して欲しい。
- ・みんなの本だなの設置や読書ブログの整備など、特色ある取り組みがなされている。今後の継続した取り組みが期待される。

5 地域の教育力の向上のための支援体制の整備

<目標>

5 - 1 地域における教育を推進する会議

地域が主体的にその地域の教育活動を考え、学校と連携して地域の教育活動を行っていくために、提言のあった「地域青少年育成会議」(仮称)というような組織を作っていくことが重要です。教育委員会主導で組織していくのではなく、各地域の自発性や主体性を尊重し、支援してまいります。また、各地区の取組を広く紹介し、連絡会などで情報交換を積

極的に展開していきます。

<進捗状況>

・地域青少年育成会議

青少年健全育成協議会連合会総会及び学校・地域ネットワーク事業推進本部会において推進計画を説明しました。その後、全中学校区の学校・地域連携委員会と各小学校区の青少年健全育成協議会の合同会議を開催し、各地域が主体的に組織を作るようお願いしました。さらに、PTA連絡協議会の関係者、要請のあった各小学校区単独の青少年健全育成協議会総会、文化グループ等関係団体へ訪問したりして説明しました。

<有識者からのご意見>

- ・ いろいろ問題があることも聞いたが、粘り強く地域に働きかける必要があると思う。
- ・ 地域において教育に主体的に関わり、実施していく組織を構築することは、非常に重要な取り組みだと思われる。今後もさらに取り組みを充実させ、多くの組織が立ち上がることを期待する。